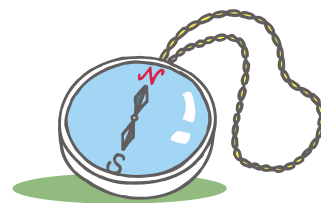


羅 針 盤

第 4 号

令和8年4月27日（月）



◆ 「社会に貢献する思いを持つ」

人間は、周りにいる人の話を聞いて、自分の考えの中に自分とは違った意見を入れて、それを混ぜ合わせて、そして、新しい考えを繰り返し何度も作り出して発展してきました。すべての発明は、「人の声に耳を傾ける」ことから出発しています。鉛筆で字を書いている、間違ったときに、消しゴムを探す時間が無駄だと言う声を聞いた人が、鉛筆の上に消しゴムをつけることを思い立ちました。鉛筆を削るのが邪魔くさいなと言った声を聞いた人がシャープペンシルを作り出しました。また、座ったまま遠くへ行きたいという声が自転車を生み出し、更には、自動車を作り出しました。公衆電話を探さずにすぐにでも連絡を取りたいという声が携帯電話を生み出してきたというわけです。人の声を素直に聞くことで、不便なことを改善していく手立てをつくり出していくことができます。発見や発明、それが、社会に貢献したいという思いを持つことの原点かもしれません。それでも、大きく勘違いをしてはいけないことではあります。何も偉大な発見や発明をすることだけが、社会に貢献するというものではありません。また、当然のことながら、ボランティア活動を熱心に取り組むことや、寄付を行うといったことに限ったことでもありません。日常生活の中からもたくさんの社会に貢献できることはあるはず。まずは、意識を変えて、今までの行動を振り返ってみることが大事なことです。多くの人の力を借りて生活が成り立っていること、自分自身も社会の構成員であるという自覚を持つこと、それが自分勝手な行動の誤りの気づきとなり、互いに助け合える社会をつくり出していくことに繋がっていくはず。社会に貢献するという事は、一生涯を通じて自分らしさを求めながらも、誰かの役に立っているという認識を持って、日々の生活がより良く、そして、充実感のある、豊かな人生を歩んでいくために必要不可欠なものであるはず。感謝される喜びを得て、社会とのつながりを感じ取り、生きがいといったものを持ちながら暮らしていくことが、人としての成長につながっていることに間違いはないことだと思います。

◆ 「ルール（きまり）を守る」

「ルール（きまり）」とは、「守らなければならない規則・決まりごと」のことを意味しています。私たちが秩序を持って、誰もが気持ちよく社会で暮らすためには、欠かせないものであると言えます。日本の国の最初のルール（きまり）は、今から1400年も前につくられた「十七条の憲法」です。当時の日本は、だんだんと国ができあがってきていて、誰もが仲良く住みやすい国づくりを進めていく必要があったため、「争いごとを無くして、仲良くする」といったことが書かれていたそうです。きまりの原点となるのは、仲良く暮らすということです。ルールをなぜ守るのか、それは、安全・安心で、快適な生活ができるということ。そして、その心構えとして、自分勝手なことをしないといったことがとても大切なことです。学校、あるいは、社会という集団生活の中では、ルールを守ることは欠くことのできない大事なことです。

